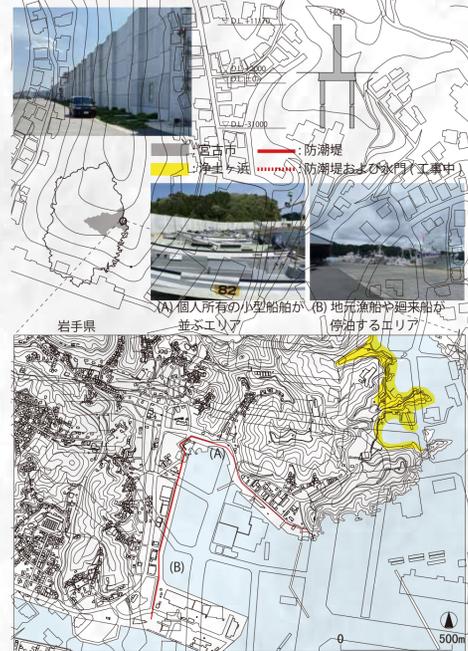


宮古港ツーリズム

防潮堤と共に暮らす漁師町の再生

敷地概要



関東大震災
出典: <https://typhoon.yahoo.co.jp/weather/calendar/92/>

阪神淡路大震災
出典: https://www.hyogo-jk.or.jp/hanshin_awaji_earthquake/



東日本大震災
出典: <https://www.asahi.com/gallery/photo/national/311earthquake/2https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h28/83/special/0210309/01.html>

熊本地震
出典: <https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h28/83/special/0210309/01.html>

日本における震災の歴史は古く、数多くの被害の記録が残されている。沿岸部では地震のみならず、津波による被害が大きい。盛り土や埋め立てをし、形を変えながらの復興を繰り返してきた。

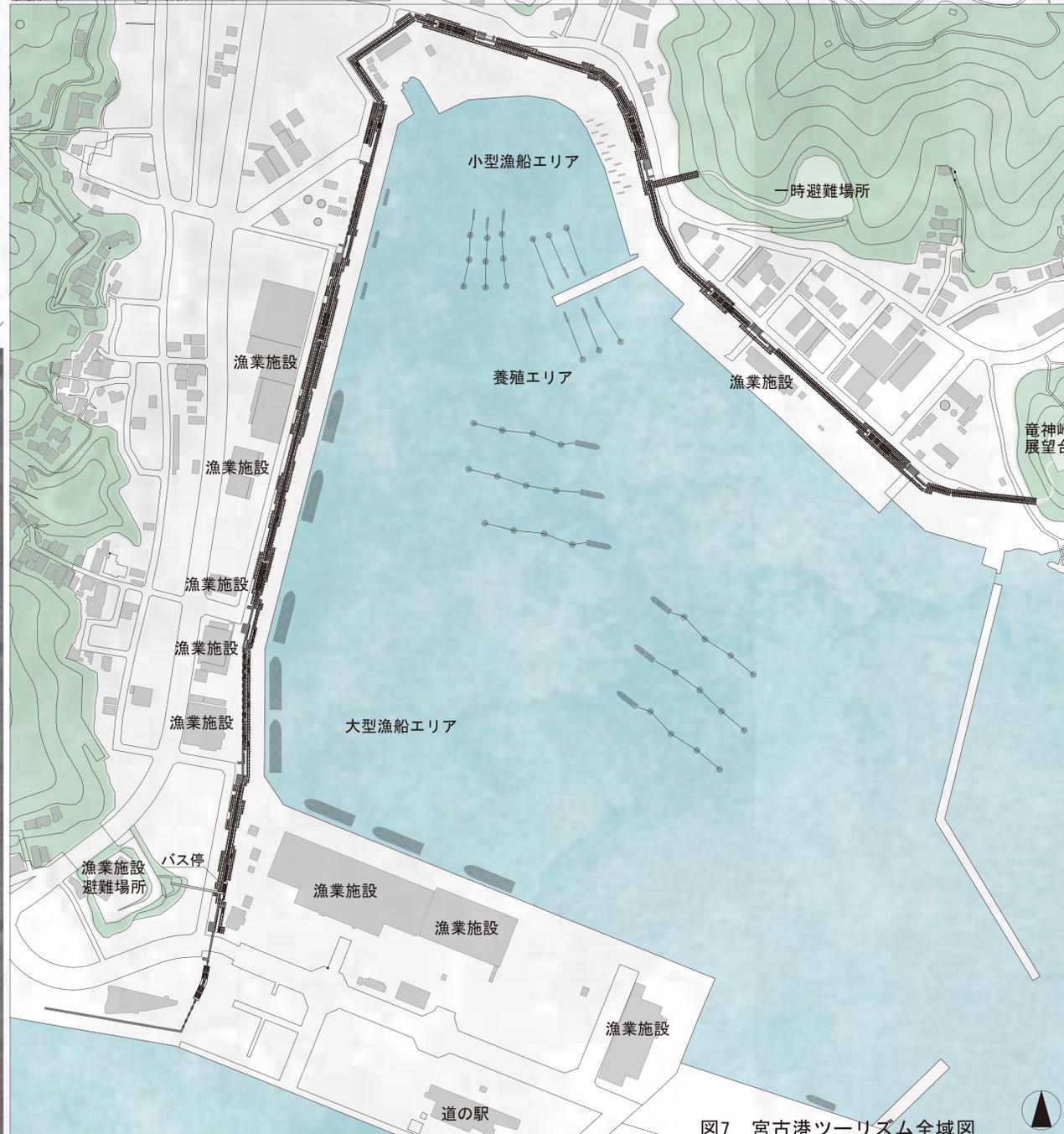
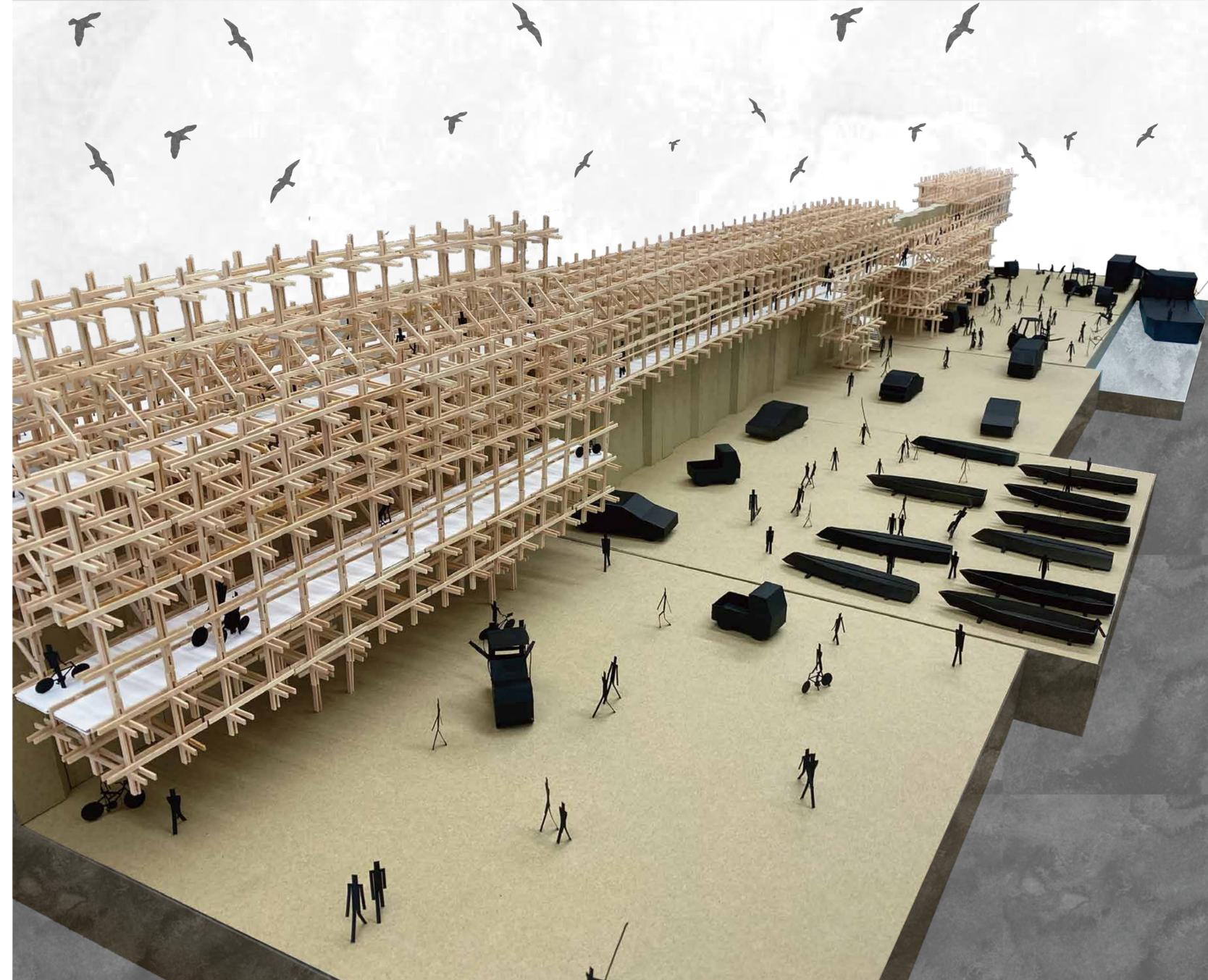


図7 宮古港ツーリズム全域図



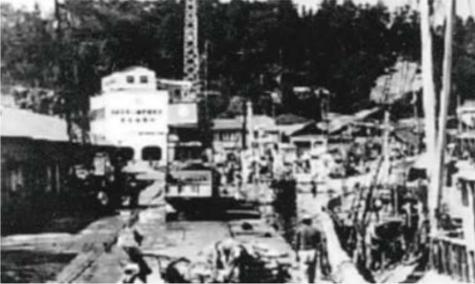
■本計画について

はじめに
日本における震災の歴史は古く、数多くの被害の記録が残されている。沿岸部では地震のみならず、津波による被害が大きいため、盛り土や埋め立てをし、形を変えながらの復興を繰り返してきた。ここ最近では2011年に発生した東北地方太平洋沖地震（以下「東日本大震災」と表記）が記憶に新しい。その被害を受け、岩手県、宮城県、福島県の沿岸部に合計約395kmにおよぶ巨大防潮堤がつくられた。防潮堤は人命や建造物を津波の脅威から守るための役割を持つ一方で、海への眺望を遮断し、漁港エリアと居住エリアを明確に分断してしまった。それにより、漁業のなりわいと暮らしとの密接な関係に距離が生じてしまった。そこで本計画では、防潮堤にツーリストルートとしての役割を持たせるとともに、漁港としてのなりわいや暮らしの側面を付加させることで、防潮堤とともに暮らす漁師町のかたちを提案する。

計画地概要
本計画地である宮古港は、慶長20年（1615）に南部藩の外港として定められ、400年以上の歴史がある港である。その歴史の中で宮古港は、漁業をはじめとして、東廻り航路の重要な寄港地であったことや、鉱物や木材の交易が盛んだったことにより、港を中心に発展してきた。



江戸時代の宮古港



鉏ヶ崎の貯蔵庫



宮古港における過去の津波被害

観光地としての役割
宮古市には三陸復興国立公園・三陸ジオパークの中心である浄土ヶ浜があり、流紋岩でつくられた真っ白の海岸を背景に、海水浴シーズンには多くの観光客で賑わっている。浄土ヶ浜には遊覧船が運行していたが令和3年を持って58年の歴史に幕を下ろした。現在は新しく遊覧船「宮古みねこ丸」が運行しており、宮古港にある道の駅「シートピアなあと」から利用できる。宮古港は道の駅から浄土ヶ浜までの海岸線にあり、水揚げの様子や海産物の加工などといった、漁港としての生業を身近に感じながら歩くことができる。

地元住民と宮古港
震災前は通学時や散歩などの外出時はもちろんのこと、立地によっては自宅の窓から海が見えるほどに普段の生活と海が近い位置にあった。近隣の学校に通う学生は宮古港を釣り場や遊び場と、サードプレイスのように利用する光景もみられ、そこでは地元漁師との交流もあった。また、「大きな地震があったらすぐ高いところに逃げろ」といった津波に対する教えや、沿岸部の学校で行われている津波避難訓練や災害学習も長い歴史の中で培ってきた経験を元に継承されてきた漁師町文化の一つと考えられる。

宮古港周辺における東日本大震災前後の変化
宮古港は400年の歴史の中で15回もの津波を経験して



漁業で栄える宮古港



鉏山から宮古港までの索道
出典：假屋雄一郎「宮古港のみなと文化」



出典：東日本大震災 宮古市の記録 第二部（資料編）歴史津波

いる。リアス式海岸特有の起伏の激しい地形から、地震による地盤沈下の影響や、それに伴う治水事業で海岸線が変化してきた。宮古港における震災前後の漁業施設等の変化をみる。宮古港に建設された防潮堤の全長は1629mで高さは9.1mである。震災前と震災後で漁業に関する施設を比較してみると、震災後では水揚げされた魚の選別、販売、出荷を行う魚市場の数が減少し、防潮堤沿いに仮設的に作られた漁具置き小屋や漁具置き場の数が増えている。また、個人所有の小型船を使用した漁を行う漁師が利用する漁師小屋は完全に無くなってしまっている。以上のことから、震災前は漁師小屋にて、漁具の管理や漁師の休憩が行われていたが、現在は雨晒しで置かれているか、防潮堤の階段下、あるいは、震災前は住宅があった場所に建てられた仮設の漁具置き場に置かれている。また、震災前に魚市場や漁師小屋が並んでいた場所は、防潮堤が作られたことにより、かつての賑わいと景観が失われてしまっている。

宮古港ツーリズム
本計画では、道の駅から浄土ヶ浜への通り道にある防潮堤にツーリストルートを計画することで、観光客や地元住民が漁港としての生業を身近に体感しながらの散策を可能とする。ツーリストルートは、50×150×3000mmの木材をユニット化した木組みの連



魚市場の様子
出典：https://4travel.jp/dm_shisetsu/11340595



かつて魚市場があった場所



震災前の宮古港周辺のイメージ



災害学習の様子

続で構成される。ツーリストルートには遊歩道のほか、サイクリングロードや各所に休憩所・展望デッキ・駐輪場を配置することで宮古港への眺望を楽しみながら浄土ヶ浜まで移動できる。また、付近に隣接する2ヶ所のバス停を半屋内空間として取込み、バス待ちだけではなく地域住民の交流の場とした。復興後、行き場を失った漁師小屋も配置し、地元漁師が休憩や漁具の手入れに利用する。また、漁具置場を各所に配置し、宮古港全域に魚具を収納することで漁港としての生業を視覚化する。さらにツーリストルートと一時避難場所を繋げる避難ルートを設けることで、地震の際に円滑に避難することができる。

ツーリストルートとそれを構成するユニット
宮古港に作られた防潮堤は全長約1629mである。そのうち、道の駅を起点とした1538mにツーリストルートを計画する。宮古港全体を通して、宮古港に停泊する大型漁船や養殖の様子、水揚げから水産加工場までの流れを間近に見ることができ、散歩や移動中に漁港の生業を普段と違う目線から俯瞰することができる。ツーリストルートを構成するユニットは、床パネル・壁パネルを取り付けられる。また、筋交を取り付け、各所を補強する。これらを連続するユニットの要所に配置することで以下の用途を構成する。

サイクリングロード



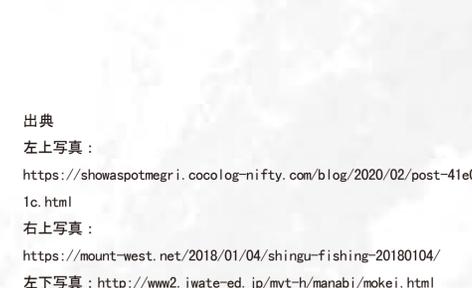
雨晒しで置かれた漁具



住宅跡地に建てられた漁具置き場



宮古港のイメージ



出典：左上写真：https://showspotmegri.cocolog-nifty.com/blog/2020/02/post-41e01c.html 右上写真：https://mount-west.net/2018/01/04/shingu-fishing-20180104/ 左下写真：http://www2.iwate-ed.jp/myt-h/manabi/mokei.html

道の駅から浄土ヶ浜までは約3.6kmであり、宮古港は漁港としての生業を身近に感じることができることから自転車移動として申し分ないロケーションである。そこで、道の駅から浄土ヶ浜区間にレンタルサイクルのサイクリングロードを設け、観光地としての活性化を促す。

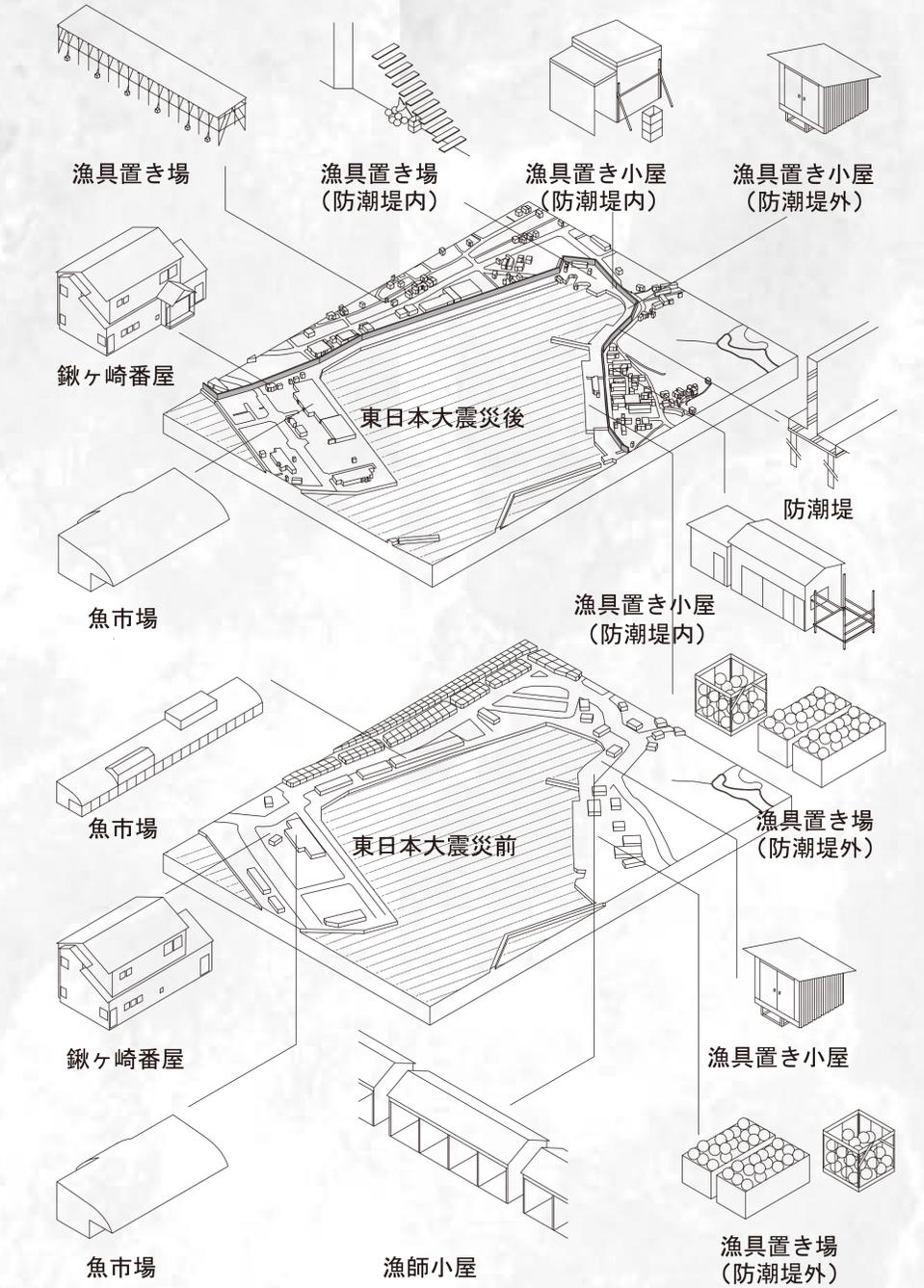
休憩所・展望デッキ・駐輪場
宮古港では様々な漁業の様子を見ることができる。そこで、ツーリストルートおよびサイクリングロードの各所に休憩所、展望デッキおよびそれらに付随する駐輪場を配置し、それぞれの場所で行われる漁業の様子を身近に楽しむことができる。バス停
宮古港周辺の2箇所には市街地への行き来などで利用するバス停が防潮堤に隣接し、バスは車を持たない地元住民の生活には欠かせない移動手段である。バス停には屋根が無いため、雨天時には傘を刺してバスを待つ必要がある。そこで半屋内空間としてツーリストルートに取り入れ、コミュニティの場として再配置する。

漁師小屋および漁具置き場
(A) エリアには、養殖等を行う漁師が漁具と手入れや休憩で利用する漁師小屋があった。しかし、震災により失われ、それらの様子も見受けられなくなった。そこで、ツーリストルートに漁師小屋を取り込むことで、かつ

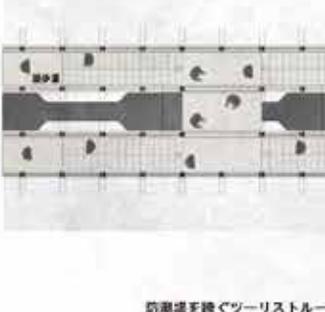
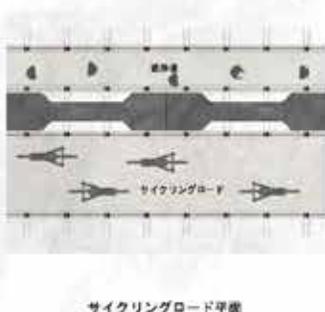
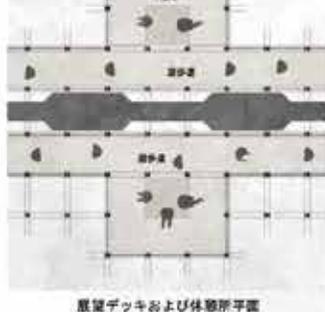
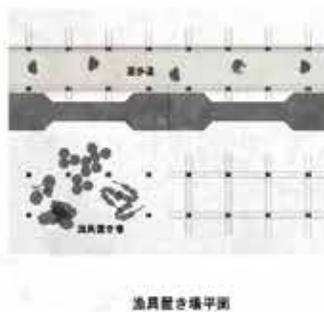
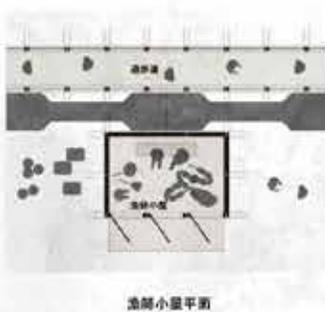
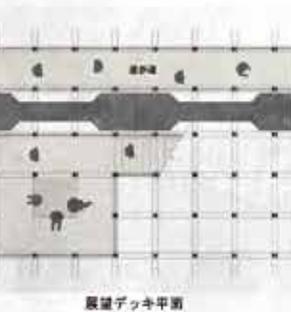
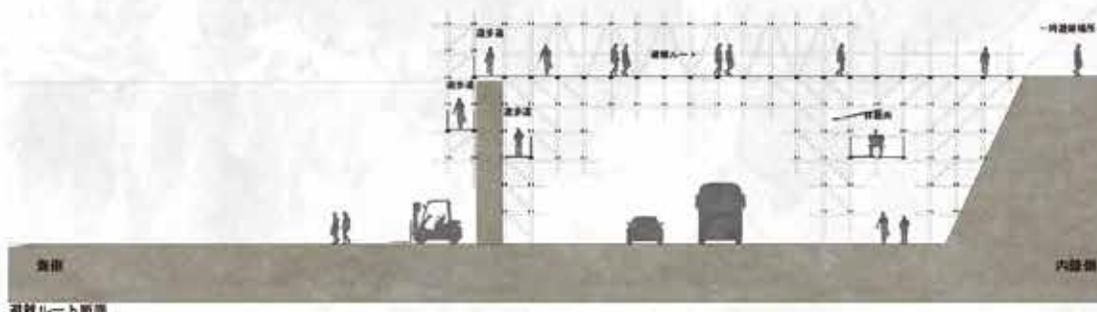
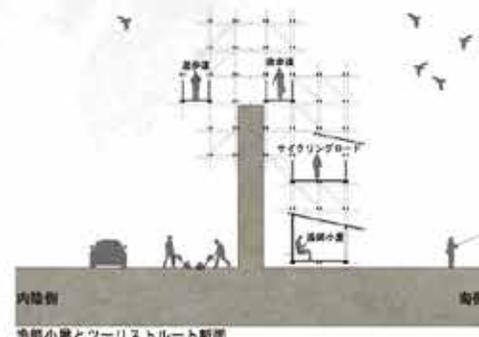
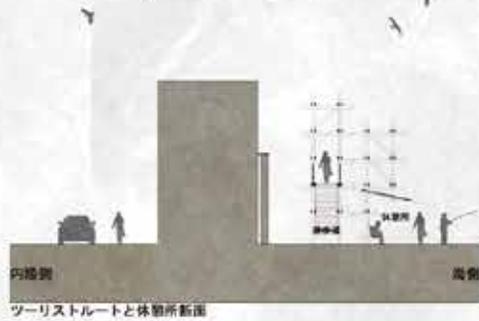
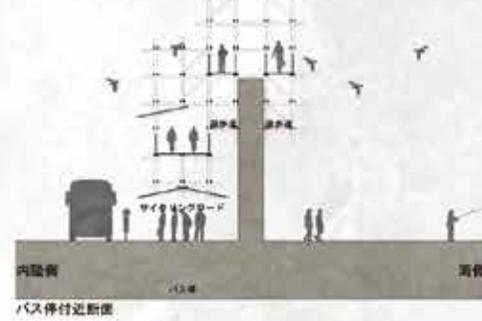
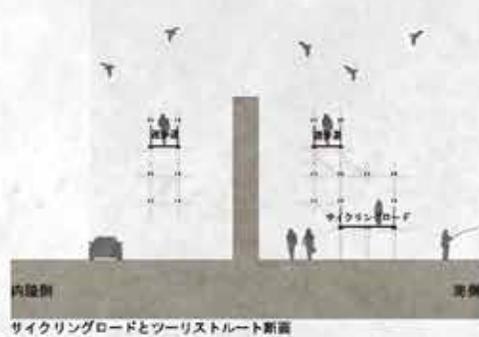
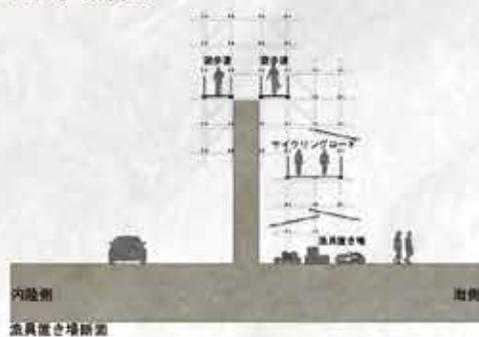
ての賑わいを再生させる。また、宮古港全域に、それぞれの場所に合った漁具置き場を配置し、漁港としての生業を視覚化する。一時避難場所への避難ルート
津波の発生が予測される場合、遠くにはなく、高いところに避難しなければならない。また、防潮堤あるゲートは閉まってしまったため、7箇所に設置されている階段を使用し、防潮堤を跨ぐ必要がある。よって、ツーリストルートと一時避難所を繋げ、円滑な避難を可能とする。

むすび
以上を防潮堤の新しい役割として付加させることで防潮堤を中心に活動が広がり、地元住民や観光客とともにつくりあげる新たな漁師町のかたちとして提案する。

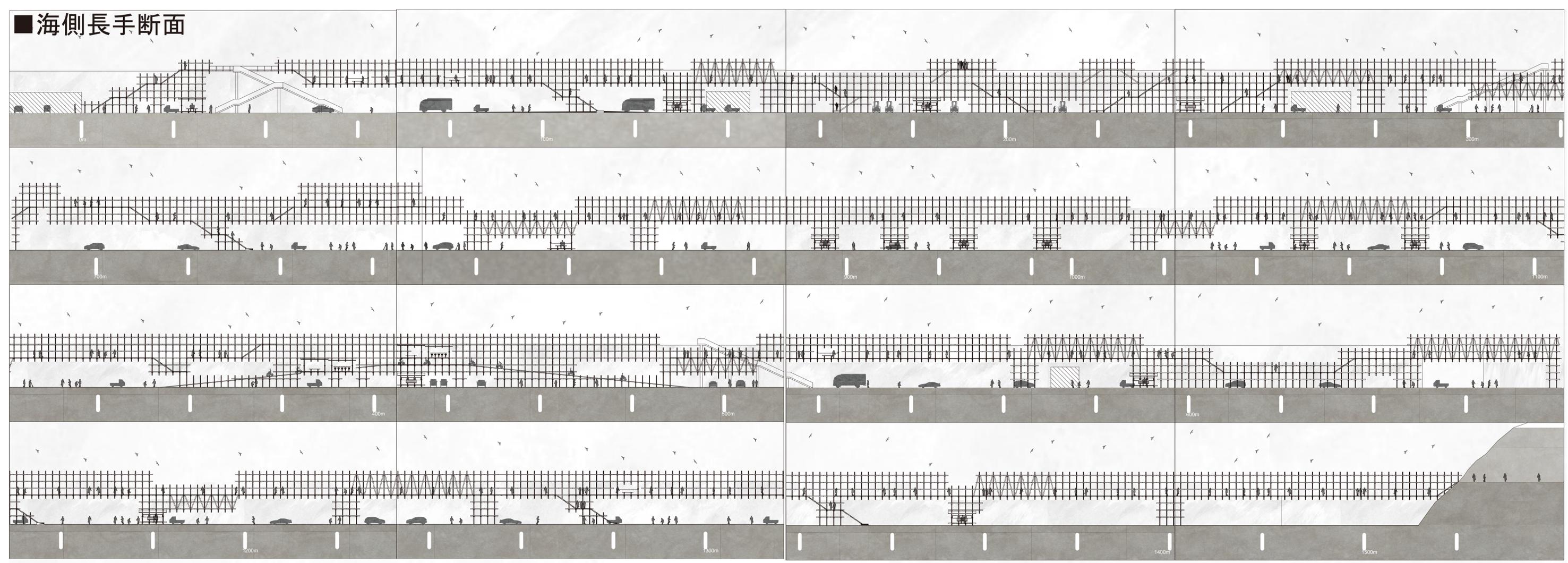
参照 1) 出典：農林水産省 Web サイト (https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1105/spe1_02.html) (2022年08月17日に利用) 2) 出典：東日本大震災から10年 海と生きる道を選んだ気仙沼の復興（前編）：巨大防潮堤と戦ったまち (https://www.nippon.com/ja/in-depth/d00684/) (2022年9月8日に利用) 3) 出典：宮古港開港400年のあゆみ假屋雄一郎 (https://www.waterfront.or.jp/kenkyu/kenyu17.pdf) (2022年8月30日に利用)



■短手断面



■海側長手断面



■模型写真

